

日本語書き言葉における連体修飾節
 一非限定的用法の談話的・語彙的要素の考察—
 SOME DISCOURSE AND LEXICAL ASPECTS OF NON-RESTRICTIVE RELATIVE
 CLAUSES IN WRITTEN JAPANESE

下條光明, ニューヨーク州立バッファロー大学
 Mitsuaki Shimojo, University at Buffalo, The State University of New York

1. はじめに

本研究では、日本語物語作文の分析をもとに英語母語の学習者による連体節非限定的用法の過小使用を指摘し、母語話者の作文と談話コーパスの分析から、学習者にとって非限定的用法理解の手がかりとなり得る談話的、語彙的要素を探る。

これまで日本語学習においての連体節使用の難しさが指摘されてきたが（増田 2001、奥川 2011、矢吹ソウ 2013 など）、本研究の作文データでも連体節の使用が中上級学習者に限られ、学習者全体の使用頻度が母語話者と比較して少ない。さらに、学習者の使用する連体節は大部分が限定的用法であり、母語話者の作文同様、談話の登場人物を主名詞にとり人物導入に使われることが多い。一方、母語話者の作文では連体節の非限定的用法は多様な談話機能を担い、前後文脈と密接に関係する情報の前景化、また複数の出来事を結び付けた談話展開などの機能が観察された。さらに、連体修飾される主名詞では、限定的用法では指示性の低い普通名詞が多いが、非限定的用法では代名詞や固有名詞の他に指示性の高い普通名詞が多く観察された。

本研究ではこれらの点を中心にコーパスデータ分析も取り入れながら、学習者にとって非限定的用法使用のための手がかりとなるような談話的・語彙的要素を考察する。

2. 先行研究

連体修飾節は大学レベルの日本語教科書で扱う必須文法項目¹であるが、学習者による産出は比較的遅い。この背景には構文の複雑さに加えて「日本語学習初期の段階では、それを使用しないと意味が通らないというような学習項目ではない」（奥川 2011）ということも関係すると思われるが、奥川が指摘するように、伝えたい情報をコンパクトに日本語らしく伝えるには連体節の使用は避けられない。ここではまず学習者の連体節使用に関わる先行観察を概観する。

まず使用頻度では、文の産出に時間的余裕のある作文においても母語話者と比較して学習者が少ない（齋藤 2002、増田 2000、矢吹ソウ 2011）。また、韓国語、中国語、英語母語話者の日本語作文では、英語母語話者で最も使用率が低い（矢吹ソウ 2013）。構造的には、英語母語の初級学習者では文頭での使用が多く、「きのう読んだ本はおもしろかった」など、主節主語として使う修飾節が目立つ（矢吹ソウ 2011）。意味的には、英語母語話者は「属性・状態・進行」（形容詞的で非時制的意味）を表す節（例：「そこにいる男の子」）の使用が多く

¹ この点の教科書比較については Yabuki-Soh (2013) を参照。

(大塚 1998、矢吹ソウ 2013)、修飾節内の事態と主節の事態に時間差がない(増田 2002、矢吹ソウ 2013)、英語母語の超級学習者でも「過去・未来」の使用は少ない(大関 2004)ことが報告されている。

連体節の機能面では、学習者では被観察物(者)を主名詞とするものが多く、行為主体者が主名詞になり「何らかの『行為』を行い、ストーリー展開を支えている…『動的な要素』」(増田 2002: 44)を持つものが少ない(矢吹ソウ 2013)。また、登場人物の情報を背景的に修飾節で表す人物導入型は使われるものの、人物を主名詞にして時系列に事を連ねる談話展開型連体節の使用はほとんどない(増田 2001、奥川 2011、矢吹ソウ 2013)。このような談話展開は非限定的用法の主要な機能の一つだが、増田(2001)によれば、「連体節+主名詞」と「主節」との間に因果関係があり、連体節が先行談話をまとめ上げ、時系列に談話を展開する。従ってこのタイプの連体節はテキストの冒頭には現れない。(1)では、第二文の連体節「それを(コボちゃんが)こっそり見ていた」が先行文脈に関連し、その結果として「(コボちゃんが)…○印でかこんでしまいました」という主節で表される事態が表されている。増田(2001: 56-7)は母語話者が談話展開型連体節を使うことで異なる事態を効果的につなぎ「学習者が書くテキストに目立つような、すべてを接続形式でつないで述べる単調な展開を回避している」と説明している。

(1) 談話展開型連体節の例(増田 2001: 53)

「コボちゃんのお母さんは26日に歯医者に行くということを忘れないように、壁にかかっているカレンダーの26日の日付を○印でかこんでおきました。それをこっそり見ていたコボちゃんは、お母さんのいない間にカレンダーの日付のすべての日を○印でかこんでしまいました。」

3. 研究データと研究設問

増田(2001)、矢吹ソウ(2013)など、上掲の先行研究では事態の因果関係が明白な4コマ漫画に基づく作文を扱っていること、奥川(2011)では5分間のアニメーションに基づく作文を扱うが英語母語話者の作文ではないことを踏まえ、本研究では、英語母語話者の書いた12コマの絵に基づく作文を分析する。

本研究では以下の3つの研究設問を設定し、学習者にとって連体節使用のための手がかりとなるような談話的・語彙的要素を考察する。

- 連体修飾節の使用が苦手とされる英語母語の学習者と日本語母語話者で連体節の使用にどのような違いがあるか。
- 連体修飾節にどのような談話機能があるか。
- 限定的用法と非限定的用法で主名詞のタイプに違いがあるか。

4. 物語作文データの概要

分析対象とする作文データは英語を母語とする日本語学習者16名(内訳は表1参照)、および日本語母語話者11名(いずれもバッファロー大学在籍者)が

12 コマ一続きの絵²（付録参照）をもとに書いたものである。各コマにつき最低1文を使い全体として1つのまとまったストーリーとなるように、各自のペースで個別に作文を作成した³。本研究では話者間の比較を念頭に置き、自由トピックによる作文ではなく、共通の絵をもとに作成した作文を分析することで、ある程度まで使用語彙・表現や話の流れをコントロールした。

表1：学習者の内訳 作文作成時の日本語既習状況

在籍日本語クラス	人数	既習授業時間	使用済の主要教材 ⁴
202	3	200 時間	なかま 1・2 (～7 課)
301	5	300 時間	なかま 1・2、とびら (～4 課)
401	5	400 時間	なかま 1・2、とびら (～14 課)
402	3	430 時間	なかま 1・2、とびら、 マンガ坊ちゃん (～6 課)

5. 連体節の使用頻度⁵

まず、作文の総節数では学習者と母語話者間、また学習者の各レベル間で大差がなかったが⁶、連体節は学習者全体で 14 例（一人平均 0.9、一節平均 0.03）、母語話者が 68 例（一人平均 6.2、一節平均 0.21）と、明らかに学習者の連体節の使用頻度が低かった。

連体節は一般的に内の関係を表す節（「家を出た B 太」など）と外の関係を表す節（「毎日が充実した生活」など）に区分されるが⁷、内・外の関係別の使用頻度を表 2 に示した。

内・外別では全体的に学習者、母語話者ともに内の関係を表す修飾節の使用が目立つ。学習者では連体節総数 14 例のうち 12 例（86%）、母語話者の総数 68 例のうち 57 例（84%）が内の関係を表す連体節であった。その一方で、母語話者では外の関係を表す連体節が 11 例（一人平均 1.0）あったのに対し、学習者では 2 例（一人平均 0.1）しかなく明らかに使用頻度が低い。外の関係を表す連体節は 301 レベル以上の使用教材で既出であるが（表 2 の黄色部分参照⁸）402 の学習者でしか使用がなかったことは、このタイプの連体節使用の定着の悪さを示

² Brown & Yule (1983) に基く。

³ 学習者には絵に関連する単語リストも配布したが、辞書を使用しリスト以外の表現も自由に使ってよいとした。

⁴ 「なかま」は 1、2 ともに第 2 版を使用。

⁵ 本節で述べた以外の使用頻度（主名詞の有生・無性、主節・修飾節での格関係など）は下條 (2014) で概観した。

⁶ グループごとの一人平均節数は 202 (26.7)、301 (24.6)、401 (25.8)、402 (31.7)、母語話者 (30.5) であった。

⁷ 内・外の用語は寺村 (1975) による。ここでは「髪の毛の長い女性」のような項を伴う形容詞をとるものや「とてもきれいで若い女」のような節接続を伴う形容詞をとるものも内の関係に含めた。学習者による「外の関係」は文法エラーを伴った「どこかに行くのじゅんぴ」を 1 例含む。「気を遣わなくていいのは楽なのだが」など「の・こと」を伴う形式名詞節は除外した。

⁸ 初出は『とびら』第 2 課の読み物。

唆している。ただし、下で述べる内の関係を表す連体節の場合と異なり、このタイプの連体節は学習者が使用した教科書で文法導入項目としては扱われていないことも影響していると考えられる。

表 2：内・外の関係別頻度（黄色=教科書で既出）

	202 (n=3)	301 (n=5)	401 (n=5)	402 (n=3)	母語話者 (n=11)
内の関係 (一人平均)	0	5 (1.0)	4 (.8)	3 (1.0)	57 (5.2)
外の関係 (一人平均)	0	0	0	2 (.7)	11 (1.0)

一方、内の関係を表す連体節は、すべての学習者にとって導入済みの項目であったにもかかわらず、202 レベルの作文では使用されず文型導入時（『なかま 1』で導入）とのずれが見られる。さらに、301 以上ではレベル別で使用頻度に差がなく、402 でも母語話者の使用頻度には届かない。使用頻度にはある程度個人差も見られ、401 でも連体修飾節をまったく使用しなかった学習者が 2 名いた。

次に、内の関係を表す連体節について限定・非限定別での使用頻度を表 3 に示す。ここでは益岡（1997）に従い、修飾節なしでも主名詞の指示対象が変わらないものを非限定的、修飾節がないと文意が変わる、すなわち修飾節が主名詞の指示対象を特定するために必要不可欠な情報を含む場合を限定的とした。

表 3：内の関係を表す連体節 限定・非限定別

	202 (n=3)	301 (n=5)	401 (n=5)	402 (n=3)	母語話者 (n=11)
限定的 (一人平均)	0	5 (1.0)	4 (.8)	1 (.3)	27 (2.5)
非限定的 (一人平均)	0	0	0	2 (.7)	30 (2.7)

母語話者では限定的・非限定的ともにほぼ同頻度であるが、学習者では限定的用法が大部分を占め⁹、非限定的用法は 2 例しかなく共に 402 の学習者であった。この観察は非限定的用法使用の難しさを示唆するが、学習者に見られる限定的用法への偏りの背景には、教科書での連体節導入が限定的用法に絞られていることと関係づけられる。本研究における学習者が使用した『なかま 1』では第 10 課

⁹ 限定的用法は登場人物を主名詞に取り人物の（再）導入に使われる例が目立つ。（例：「クラブで出会った女性と一緒に住むことにしました」301 学習者）

と第 12 課¹⁰で連体節が導入されるが、文型導入・説明と文法練習 (“Activity”) で扱う例文は (2) の例のような限定的用法に限られており、いずれも連体節が主名詞の特定に必要な不可欠な情報を表している。

(2)

a. なかま 1 第 10 課 p. 406

ホン：田中さんのお母さんはどの方ですか。

木村：あそこにいる人ですよ。せが高くてかみがながい人です。

b. なかま 1 第 12 課 p. 503

たのしかったミュージカル

先月キャンプに来た人

私は よく食べる子供でした。

その一方で、教科書の読み物など文法導入・説明以外の部分では (3) にあるように非限定的用法も使われている。にもかかわらず作文で観察される限定的・非限定的用法の使用差は教科書での扱いの差がそのまま反映されているとも考えられる。

(3)

a. なかま 2 第 1 課 「読む練習」 p. 71

「私の父はたばこが大好きで…。そして、仕事でよくお酒を飲みに行って毎晩十二時ごろまで家に帰れません。ですから、このごろとても顔色が悪くて、ごはんもあまり食べられないそうです。…父は仕事が好きで、家にいるのはあまり好きじゃないので、病気で会社をやすんだことはありません。でも、私も母もとても心配です。一週間ぐらい前に父と話しましたが、父は仕事は休みたくないそうです。話を聞かない父が元気になるように、私と母はどうしたらいいんでしょうか。」

b. とびら 第 1 課 「読み物」 p. 5

「…愛媛県松山市にある道後温泉は日本で一番古い温泉で、3000 年の歴史があるとされています。『坊ちゃん』や『こころ』という小説を書いた夏目漱石がよく行ったそうで…」

6. 非限定的用法の機能的分類

次に作文データで使用されている非限定的用法の機能的分類を試みる。まず母語話者のデータでは「談話展開」(21 例)、「導入」(2 例)、「提示表現」(1 例)、「文脈支持」(6 例)の 4 つに分類できる。最も使用頻度が高いのは前述の談話展開型であり、(4a) では先行談話をまとめる連体節 (ジャックが違

¹⁰ 第 10 課では連体節述部が辞書形になること、第 12 課では連体節述部が過去形にもなること、修飾節主語が「が」をとることが説明されている。

うことをしてみたくなくなった)と主節(ジャックが遊びに行こうと思った)との間に因果関係があり時系列に談話を展開している。(4b)は先行談話で未出の情報が非限定的連体節を伴う例であり、導入される主名詞の情報「ディスコ」に連体節が付加情報(ここでは特に「クラブ」との対比)を表している。

(4) 談話展開(a)と導入(b) (母語話者)

「ジャックとメアリーの夫婦は、最近ちょっと倦怠期でした。(a)いつもとちょっと違ったことをしてみたくなくなったジャックは、ある日、久しぶりに若いころを思い出して遊びに行こうと思いました。...ジャックは昔のように踊れるかちょっと不安もありましたが、最近のクラブでは若い子たちばかりだろうと思い、(b)今時めずらしく残っているディスコに行きました。」[NS-4]

(5)の例は(4b)と同様、先行文脈で未出情報の導入であるが、この例では独立名詞句に連体節が使われており、主名詞の情報を独立提示することで聞き手の意識の前面に位置づける効果がある(坪本1993、メイナード2005)。

(5) 提示表現 (母語話者)

「田中さんは、奥さんと連れ添ってやがて20年。...田中さんはある日、「ちょっと出かけてくる」と、夜の街へ繰り出します。初めて入るディスコ。」[NS-11]

上掲の3つのいずれのタイプにもあてはまらないケースでは、連体節を使用することで主名詞を前景化したり、またすでに前景化された情報をそのまま維持したりする「文脈支持」(メイナード2005)としてまとめられる¹¹。(6)では後半でT男とともにB子が前景化され、最後の文で連体節を使用することによりT男とB子の前景化を維持する効果がある。

(6) 文脈支持 (母語話者)

「T男はウィングチェアにもたれタバコをふかしながら考えごとをしている。ふとA子のほうに目をやってみる。何故一緒にいるのかわからない、と最近T男はよく思う。...とこの晩、彼は家を出た。...行き先は繁華街の一角にあるクラブ「ディスコ」。...そこでB子という若い女と知り合い、...。食事の会話もはずみ、時間はあっという間に過ぎていった。T男は帰宅後すぐにB子に電話をかけた。...数日後、T男はスーツケースを片手に、アパートを後にした。数ヵ月後。タバコを片手にソファに寄りかかるT男の隣にはB子がいる。」[NS-8]

以上母語話者の作文における非限定的用法の談話機能を概観したが、前述のように学習者では非限定的用法は二例のみで、(7)と(8)に示すように「談話展開」と「文脈支持」であった。(7)では「妻に真実がわかったこと」と「妻が

¹¹ 庵ほか(2001)は同様の談話効果の本筋(主節で示される、中心的に述べたい出来事)・脇筋(連体節で示される背景的な状況)という区別で説明している。情報の前景化は非限定的用法すべての場合にあってはまると考えられる。

悲しくなったこと」の時系列に並べられた二つの出来事の間因果関係がある。

(8) では連体節主名詞により前景化（および再導入）された「奥さん」が後方文脈で繰り返し文主語や主題となり前景化が維持されているのがわかる。

(7) 談話展開（学習者）

「...実は、男の人は若い美人と会いにディスコに行きました。...そして、家に帰ってから、若い女性と二時間ぐらい電話をして、妻が歯痒くて、一人でソファにすわりました。もう一度女性と会いたがっていて、妻にまた出かけると言って、じゅんぴしました。真実が分かる妻は悲しくなります。」[402-2]

(8) 文脈支持（学習者）

「ある所に、中年のふうふがいた。妻は本を読んでばかりいるから、夫は本当にたいくつだった。...男の人はディスコに行くことにした。ディスコで男の人がきれいで若い女性と会って、二人で一緒に踊った。...数日後、夫は若い女性に電話をした。しかし、夫はドアの後に会話を聞いていた奥さんがいたことが気がつかなかった。夫は状況の説明をして妻にあやまろうとしたけど、妻が悲しすぎた。妻は自分の部屋に行って大きい声で泣き始めた。妻が怒っていたから、夫を家から追い出した。」[402-3]

7. 連体節主名詞

最後に、母語話者の作文で連体節主名詞として使われている名詞を限定的・非限定的用法別に (9) に示す。全体の傾向として限定的用法では普通名詞、非限定的用法では固有名詞が目立ち、これは庵ほか（2001: 387）の指摘と一致する。また、普通名詞の「女性、ディスコ」は限定的、非限定的用法のいずれにも見られるものの、限定的用法の方が使用頻度が高い。しかしそれに加えて、本研究のデータでは代名詞や代名詞的な数詞、また「夫、旦那さん、パートナー」のように必然的に「誰の～」の意味合いを含む名詞も非限定的用法主名詞としての使用が目立つ。庵（2007: 148-151）はこのような名詞を1項名詞と呼び、統語的な必須項をとり、それ故機能的には述語表現と同等の結束力を持つとしている¹²。

(9) 母語話者の作文における連体節主名詞（数字は頻度）

- a. 限定的用法：女性（6）、ディスコ（5）、夫婦（3）、女（3）、女の人（2）、（向かった）先（2）、若者たち、仲間達、友人、生き物、話、鬱憤
- b. 非限定的用法：田中さん（3）、二人（3）、B太（2）、ジャック（2）、ジョン（2）、女性（2）、彼（2）、奥さん（2）、ディスコ（2）、エミリー、A子、T男、夫、旦那さん、パートナー、中年オヤジ、イタリア料理、恋の炎、アパート

¹² 庵（2007: 150）は1項名詞とそうでない0項名詞との判別に「そうですかテスト」を提案している。すなわち何の前提もない始発文としての「昨日街で作者を見かけたよ」に対して「ああそうですか」で談話を閉じることはできないのに対し、「本」や「作家」など0項名詞ではそれが可能であるとする。

8. コーパスデータ

上述のように限定的用法と非限定的用法では主名詞の性質において差があることがわかったが、非限定的用法の主名詞となりやすい1項名詞がそれ自体で結束力を持つとすれば、実際の談話でも修飾を伴わずそれ自体で使用される傾向があると推測される。ここでは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を使い、実際に作文データで使われた名詞の一部につき、文頭の主語「～が」あるいは主題「～は」に「この・その・あの～」の指示語を伴うものと（修飾語句を伴わない）名詞だけで文頭に出現するものの頻度を調べた。

表4：文頭主語・主題 (a)=。～{は・が} (b)=。{この・その・あの}～{は・が}

	女性	女	夫婦	奥さん	夫	彼	ジョン	田中さん
a. 名詞のみ	552	686	70	170	546	10583	63	53
b. 指示詞付	72	129	14	8	7	89	0	0
(b)÷(a)	.13	.19	.20	.05	.01	.01	0	0

(黄色=1項名詞・代名詞・固有名詞)

表4に示すように、作文中の限定的用法主名詞で見られた0項名詞ではコーパスでも指示語を伴う場合が多いのに対し、非限定的用法主名詞では名詞のみで使用される場合が多いことがわかる。この結果からも、少なくとも有生名詞に関しては限定・非限定的用法の間で主名詞の性質に差があることが示唆される¹³。すなわち1項名詞、代名詞や固有名詞では内在的な指示性が高く、それ故指示語との共起が比較的少ない。つまり、修飾による限定を必要としないこれらの名詞が連体修飾を伴う場合は、連体修飾が主名詞の前景化といった談話機能を表すと考えられる。

9. まとめ

本研究では英語母語の日本語学習者と日本語母語話者による作文を比較し、連体節使用に見られる特徴を考察した。上級レベルの学習者でも母語話者レベルの使用頻度には到達しないこと、さらに、学習者の使用する連体節は大部分が限定的用法であることを指摘した。限定的用法は母語話者の作文でも使用頻度が高く、談話の登場人物を主名詞にとり人物の導入に使用されることが多い。その一方で、母語話者の使用する連体節の過半数は非限定的用法であり、その点で学習者の連体節使用と大きく異なる。これと関連して、本研究の学習者が使用した日本語教科書では連体節の解説や文法練習において限定的用法のみが取り上げられている。非限定的用法は教科書全体での出現頻度も低く、句型そのものに注意を向ける文法説明・練習ではなく、内容理解を中心とする読み物などに取り上げられている。

¹³ 「ディスコ、イタリア料理」など作文で主名詞となった無生名詞はコーパスデータで主語や主題になりにくくここでは除外した。

非限定的用法は本来限定修飾する必要性の低い固有名詞、代名詞、1 項名詞など指示性の高い主名詞をとり、故に連体修飾が情報の前景化や談話展開などの談話機能を担う。つまり、主名詞を限定修飾する、すなわち主名詞の指示性そのものにかかわる限定的用法とは異なり、非限定的用法の使用は談話の前後文脈における「話の流れ」に関係し、情報をどう提示するかにおける書き手（話し手）の談話操作とも関係する。それ故に、教科書の文型導入や説明では扱いにくい用法とも考えられるが、母語話者の言語使用を目標言語のモデルに据えたとすれば、教科書や教室活動で非限定的用法にも注意をむけ、使用上の特徴や談話機能の考察等を積極的に取り入れる必要があると考えられる。またそのような考察において英語など学習者の母語における非限定的用法やその使用文脈との比較も有効かと思われる。

謝辞

本研究をまとめるにあたり有益なコメントをいただいた川村よし子、武田知子、藤原美保、渡辺文生の各氏および CAJLE2014 の出席者の皆様に深く感謝いたします。

参考文献

- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- 庵功雄・高梨信及・中西久美子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 大関浩美 (2004) 「日本語学習者の連体修飾構造習得過程」『日本語教育』121, 36-45.
- 大塚容子(1998)「表現法としての名詞修飾節」『聖徳学園岐阜教育大学紀要』35, 135-151.
- 奥川育子 (2011) 「物語談話における連体修飾節—日本語母語話者と中国人学習者の作文比較—」『日本語教育』55 韓国日本語教育学会
- 齋藤浩美 (2002) 「連体修飾節の習得に関する研究の動向」『言語文化と日本語教育 増刊特集号 第二言語習得・教育の研究最前線—あすの日本語教育への道しるべ—』45-69 お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 下條光明 (2014) 「日本語作文における名詞修飾節—英語母語の学習者と日本語母語話者の比較から—」The American Association of Teachers of Japanese 2014 Annual Spring Conference.
- 坪本篤朗 (1993) 「関係節と擬似修飾—状況と知覚—」『日本語学』12, 76-87.
- 寺村秀夫 (1975) 「連体修飾のシンタクスと意味—その1—」『日本語・日本文化』4, 大阪外国語大学留学生別科 (『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』くろしお出版 (1992) 157-207 に再掲)
- 益岡隆志 (1997) 『新日本語文法選書2 複文』くろしお出版
- 増田真理子 (2000) 「日本語母語話者と学習者のストーリーテリング文を比較する—4 コマ漫画のストーリー内容を書いたテキストの分析から—」『多摩留学生センター教育研究論集』2, 13-25
- 増田真理子 (2001) 「談話展開型連体節」『日本語教育』109, 50-59.

- 増田真理子 (2002) 「学習者はどのような連体修飾節を使っているか」 『多摩留学生センター教育研究論集』 3, 43-50.
- メイナード泉子 K (2005) 『日本語教育の現場で使える談話表現ハンドブック』 くろしお出版
- 矢吹ソウ典子 (2011) 「日本語学習者の産出する関係節の特徴についての考察」 『Journal CAJLE』 12, 180-198.
- 矢吹ソウ典子 (2013) 「日本語学習者・母語話者によるストーリーテリングでの連体修飾節の用法」 『言語文化と日本語教育』 46号, 1-10.
- Brown, Gillian, and George Yule. (1983). *Discourse analysis*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yabuki-Soh, Noriko. (2013) Types of Japanese Non-Modifying Clauses Used in JFL Textbooks. *Journal of Japanese Language and Literature* 47, 59-92.

付録：作文作成に使った絵

